



FISL News Letter

国際連帯税・金融取引税

第7号 / 2014年9月16日

◆発行・連絡先：国際連帯税フォーラム (FISL) 事務局◆

FORUM FOR INTERNATIONAL SOLIDARITY LEVIES (FISL)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F オルタモンド気付

Tel: 03-3831-4993 Fax: 03-3834-2406 ウェブサイト: <http://isl-forum.jp/>

●エボラ出血熱、デング熱＝ウィルスも蚊も飛行機に乗ってやってくる

エボラ出血熱、デング熱、そしてマラリアなど、これまでは熱帯や亜熱帯地方の感染症と考えられてきました。が、今や地球温暖化と航空機による人の大量移動によって、温帯地方にまで拡大する傾向となってきています。

ウィルスに感染した人間が、そしてデング熱やマラリア等のウィルスを媒介する蚊も飛行機に乗り、世界中に散っていきます。

グローバル化の象徴ともいえる航空輸送は、このような負のコストを生じています。今こそ、そのコストに見合う航空券(運賃)税が必要です。その税収は、内外の感染症対策に使用することができます(エボラ出血熱やデング熱の有効なワクチン等の開発資金に充当するなど)。

航空券税は、現在 10 カ国で導入され、その税収は主に UNITAID(ユニットエイド)の資金となっています。UNITAID はエイズ・結核・マラリアの 3 大感染症の治療薬・診断薬を大量に提供し、途上国で大きな成果を上げています。これに日本も参加することにより、デング熱等の治療薬が足りず「顧みられない熱帯病」と呼ばれる感染症対策にまで資金が回るようになれば、日本にとって多大な国際貢献となります。



【UNITAID のロゴの右端に飛行機】



ドイツの金融取引税：税収は最小で 2 兆 4000 億円

2015 年の国家予算で、新規国債発行ゼロ(借金なし)としたドイツ。まことにうらやましい限りです。そのドイツが健全財政への手綱を緩めることなく、2016 年 1 月 1 日までに(他の欧州 10 か国とともに)金融取引税の導入を予定しています。

この度金融取引税による税収見込み等がマスメディアで報道されました。

欧州委員会指令案の税率に基づけば、ドイツの税収は最大で 282 億ユーロ(3 兆 9000 億円)、しかし課税逃れ等もあることから控えめな数字で 176 億ユーロ(2 兆 4000 億円)という試算を立てています。

南ドイツ新聞 9 月 8 日“Finanz-Steuer soll dem Staat Milliarden einbringen”